

新規・継続等	新規	分野	ため池の補強等	事業番号	3	事業名	県営ため池等整備(農村災害対策)					
市町村名	伊那市		ふりがな箇所名	どば渡場		事業年度(完了年度は見込み)	H23年度～		H25年度			
事業概要	計画概要 (延長・幅員・面積・工種など)		農業用排水路工 L=657m				H22年度末事業進捗率		0%			
	H23年度以降残実施内容		同上				本工事費等ベース		0%			
	H23年度実施内容		農業用排水路工 L=200m				用地補償費ベース		-			
	年度		全体事業費		H21年度まで		H22年度		H23年度以降残			
	事業費計(千円)		120,000		0		0		30,000 120,000			
財源内訳	国庫支出金		60,000		0		0		15,000 60,000			
	その他		25,200		0		0		6,300 25,200			
	県債		31,000		0		0		7,000 31,000			
	一般財源		3,800		0		0		1,700 3,800			
箇所評価	観点	評価項目・指標等			評価				部	政策評価課		
									ランク	ポイント	ランク	ポイント
	(20)	必要性	保全対象人家戸数	■ 10戸以上	□ 1～9戸	□ 0戸	A	15	A	15		
		保全対象公共施設	□ 2箇所以上	■ 1箇所	□ なし	3					A	3
		小計										
	(15)	重要性	水利施設としての依存度	■ 依存度 大	□ 依存度 中	□ 依存度 小	A	7	A	7		
		かんがい(排水)受益	■ 100ha以上	□ 40ha以上100ha未満	□ 40ha未満	5					A	5
		防災計画上の位置づけ	■ 位置付けあり	□ 位置付けなし	3							
	小計					15		15				
	(10)	効率性	防災効果(B/C)	■ 1.2以上	□ 1.1以上1.2未満	□ 1.0以上1.1未満	A	4	A	4		
		早期発現度(効果発現まで)	■ 5年以内	□ 6年以上10年未満	□ 10年以上	3					A	3
		ローカルスタンダード(L.S.)計画及びコスト縮減及び代替案検討等	□ (様式4)3項目以上該当	□ (様式4)2項目該当	■ (様式4)1項目該当							
	小計					8		8				
	(35)	緊急性	施設への影響	■ 影響が明白	□ 影響が推定される	□ 影響の兆候がある	A	10	A	10		
		周辺へ与える影響	■ 影響が明白	□ 影響が推定される	□ 影響の兆候がある	10					A	10
過去の被災履歴(河川管理者からの改善要求等)		■ 5年以内に複数回(改善要求書がある)	□ 5年以内に1回(改善勧告がある)	□ 左記以外に被災有(改善勧告なし)	10							
応急対策の実施状況		□ 応急対策実施中	■ 過去に実施済み	□ 応急対策未実施		3						3
小計					33		33					
(20)	計画	地域からの要望	■ 地域住民の内発的な活動が強い	□ 市町村からの要望がある	□ 特に要望ない	B	6	B	6			
	熱度	事業情報の共有	□ 関係者以外に広く周知	■ 関係者を中心に周知	□ 特に周知してない					3	B	3
	住民参加の状況	□ 住民が計画策定に直接参加	■ 住民や市町村の意見を計画策定に反映	□ 住民意見は反映していない	4							
	小計										13	
費用対効果(B/C)		1.22		評価の合計				A	87	A	87	
事業周辺環境	事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	本地区排水路上流域は、第一次構造改善事業による整備後、近年において農地の整備が図られ、加えて宅地化、道路の舗装化も進み、第一次構造改善事業により想定していた排水量を上回る量が一気に流下してくることとなり、降雨時の多くに溢水被害が生じている。地区内からの排水は天竜川への排水樋門1つのみであり他にパイパス水路もない。水路の維持管理は地元区により行われているが、部分的な補修程度の実施であり、老朽化も相まって、農作物や農地、あるいは宅地、公共施設に甚大な被害を及ぼす恐れがあり、抜本的な改修が早急に必要である。										
	地域からの要望経緯	通常の維持管理は渡場区が行っており、緊急時の土のう設置等については伊那市が対応している。平成18年の豪雨災害時には、住民に避難命令が出され、消防署の出動により土のう積み、伊那警察署により冠水道路を封鎖通行止めにする事態となった。こうした状況を踏まえ、地元区より早期の改修要望が強くなっている。										
	事業説明等の経緯	・関係機関(地元区、地元地権者、伊那市、春富土地改良区、財産区、伊那市、国土交通省天竜川上流工事事務所など)において、説明し、同意を得られている。 ・負担割合、工法検討、実施スケジュールについて、東春近道路河川対策委員会等の関係機関と28回の打合せを行っている。										
	環境・景観への配慮項目	土工において、現場発生土を再利用し、植生への影響が出ないようにする。										
	他事業・プロジェクトとの関連	特になし。										
	特記事項	降雨時の排水時間(24時間排水→4時間排水)、営農形態(水田単作→田畑輪換)の変化により、現況断面では今の排水量に対応できず、降雨時にはたびたび溢水している。										
地域の合意形成	■ 全員賛成		□ 概ね賛成		□ 過半数賛成		□ 動向不明		□ その他			
部意見	排水路の災害防止機能が低下しており、下流域の民家・公共施設等保全対象が多い事から、必要性、緊急性が高い。				政策評価課意見		重要性が高く、必要性、緊急性も認められる。					